
マッチ売りの少女の受難【200文字】

岸名ラナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

マッチ売りの少女の受難【2000文字】

【Nコード】

N0174W

【作者名】

岸名ラナ

【あらすじ】

父親がある投資で得た大量のマッチをきかっけに、商売をする羽目になったり事件に巻き込まれたりと人生が狂ってしまった少女のお話です。本家「マッチ売りの少女」とは異なり夢のない話になる予定です。ご注意ください。

その1

昔々ある処に、お酒中毒の父親と病弱な母親を持つ少女がいました。

ある年の大晦日。一日中咳をしていた母親の為に金を稼いで来いと、少女は父親に家を追い出されました。父親が友人に騙された投資で得た大量のマッチを持たされて。

「マッチいりませんか？」

大通りにて、少女は何人もの人に声を掛けますが誰一人買ってくれません。

身体の芯まで冷たくなり、泣きそうになったその時

「マッチ全部売ってくれ」

救世主は現れました。

その1（後書き）

ども、岸名ラナです。

どうも心優しい友人に心配を掛けているようなので、連載始めてみました。

まだ全部書きあがっていませんが、がんばって仕上げたいと思います。よろしくお願いいたします。

あつ今回変態は出てこない予定ですが、性格に難有りな人が出てきますので苦手な方はご注意ください。

では、読んで下さってありがとうございます。

岸名ラナ

その2

「ただ今」

通りすがりの葉巻屋の店主にマッチを全て売り、少女はお金を抱えて家に帰りました。

父親は上機嫌で少女を迎え、お金を受け取って母親と出かけます。母親のベッドに潜り、少女は充実した心地で両親の帰りを待ちました。その間に眠りが訪れます。

「シャンティ！」

大声で呼ばれて覚醒しました。

訪ねてきたのは母の主治医である青年。蒼い顔で告げます。

「ご両親が、事故に……」

数時間後、両親は無言の帰宅を果たしました。

その3

両親が亡くなり、少女は一人ぼっちになりました。

ドクターや葉巻屋など「家族なるう」と提案してくれる人もいましたが、それらを断り、生きる為に両親が残したマッチで商いを始めます。

今日も今日とて、街の片隅。

「マッチいかがですか」

「頂こう」

「こっちにも一つくれ」

「ありがとうございます」

少女は順調に業績を上げていました。

葉巻屋の薦めで煙草屋と葉巻屋と業務提携をしたのです。遺産のマッチで少女は財産を築きました。

その4

そんなこんなで生活も営めるようになったある日。

「マツチ下さい」

ハイ、と少女が振り向くと見慣れた青年がいます。

「ドクター、お久しぶりです。はい、マツチ」

「ありがとうございます。ついでに喉診せて」

お代を渡してマツチを仕舞い、ドクターは少女を診察しました。すぐに異常無しと分かり、微笑んで少女を撫でます。

「商いも自己管理も良好だね。でも無理はしないように」

「はい、両親のお墓をたてるまで頑張ります」

二人はこんな関係。

その5

「こんにちは」

今日も今日とてお仕事中。少女はマッチを抱えて煙草屋に来ていました。

売上回収と商品補充を済ませ、しばし老店主と歓談します。

「そういや、お墓をたてるお金は貯まったかい？」

何気ない老店主の問いに少女は笑顔で頷きます。

「ハイ！ 今回の売上でついに目標達成です！」

「それはよかった。じゃあ、今後はどうするんだ？」

「今後？」

少女はそこで考え込んでしまい、その後の老店主の注意を聞き逃してしまいました。

その6

「やあ、目標達成したんだって？」

煙草屋から聞いたのでしょうか、少女が葉巻屋に入るなり肥えた中年店主は言いました。

「はい、葉巻屋さんのおかげです」

素直に感謝する少女に葉巻屋は首肯します。

「つで、今後は？ 本格的に働くには若すぎるし、商いを続けるにしても学校は行くべきじゃないか？」

「でも」

学校へ行くと少女は生活出来ません。

それを見越して葉巻屋は言います。

「だから、養女になることもう一度考えてみないか？」

その7

「養女ってどう思います、ドクター」

葉巻屋の帰り道、少女は目標達成の報告も兼ねてドクターの元を訪れていました。

始めは一緒に喜んでくれたのに、養女の件を打ち明けた途端彼は不機嫌になります。

「何故僕に訊くの？」

「だって、他に相談する人は……」

「ごめん」

ドクターは優しく少女を撫でました。

「最近事件も多いから、誰かと住む方が安心だと思っ。でも、葉巻屋じゃなくてもいい」

「他に誰が？」

その時ノックが響きました。

その7（後書き）

ども、岸名です。

明日（正確には今日）からゼミ合宿です。更新は二日ほどお休みしますので、ご了承ください。

では、読んで下さってありがとうございます！

岸名ラナ

その8

煙草屋で火事だ！

その報せは衝撃的でした。

「煙草屋さん！」

ドクターの診療所に運び込まれた老店主は泣きそうな少女に気付き、柔らかく微笑みました。

「やあ、お嬢ちゃん」

「大丈夫ですか？」

「ああ、僕は大丈夫だよ」

「お店は？」

「店も無事だ。運が良かった。でも、分かったろ？ 火には気を付けなさい。火は、怖いからね」

火賑れだらけの手で少女を撫で、老店主は繰り返しました。

でも、これはまだ事件の幕開けだったのです。

その8（後書き）

ども、岸名です。

すっかり更新忘れてた……とか言ったら怒りますか？

ごめんなさい。

ちょっと忙しいですが、これからもがんばりますのでよろしくお願いいいたします。

では、読んで下さってありがとうございます。

岸名ラナ

その9

「今日も少女は仕事中、のはずが

「知りません」

現在、警察に囲まれて尋問を受けています。

というのも煙草屋を皮切りに、市場で民家だと放火事件が続いているのですが、その全現場で少女の売るマツチ箱が発見されているのです。それ以外特に証拠もない為、警察は少女に執拗な聞き込みをしていました。

「だから、不審なお客さんなんていません！」

「そうだよな。お前が一番怪しい」

警察の嫌味。それが少女を街から孤立させました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0174w/>

マッチ売りの少女の受難【200文字】

2011年10月17日01時58分発行